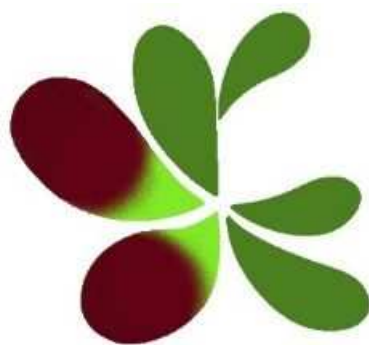


高島市オリーブ産地化促進事業全体計画
2025～2029 年度（令和 7～令和 11 年度）【第Ⅱ期】



高島市

令和 7 年 3 月
高島市オリーブ産地化推進協議会

I	計画の趣旨	1
II	市内のオリーブの現状	2
III	目指す姿	3
IV	取組方針	4
	方針1 良質な果実や枝葉を安定生産し、栽培面積を拡大します	
	方針2 高島ならではの魅力が詰まった加工品を開発します	
	方針3 観光資源としてオリーブ畑を整備し、人々の交流を生み出します	
	方針4 「たかしまオリーブブランド」を確立し、その認知度を向上させます	
V	実施計画(年次計画)	10
VI	計画の推進体制	11
VII	その他(資料など)	12



I 計画の趣旨

高島市は、滋賀県の北西部に位置し、市域の東部に琵琶湖、中央・西部には広大な田園や里山、森林が広がっており、豊かな自然と景観に囲まれ、訪れた人々の日々の疲れを癒す地域として多くの人々に愛されています。また、市内にはメタセコイア並木や白鬚神社など全国から注目を浴びている観光地をはじめ、マキノピックランドを中心とする観光果樹園や、アウトドアやアクティビティ等の自然体験など数えきれないほどの観光資源が広く存在し、市を訪れる観光客も順調に増加しています。

一方、高島市の人口は、若者を中心に市外への流出が多く、また、出生数の減少とともに高齢化が進み、その対策が喫緊の課題となっています。

そこで、今後は「定住人口」や「交流人口」に加え、より地域に関心をもってもらえる「たかしまファン」の創出に向け、「関係人口」の増加が期待できる施策を講ずることが求められます。

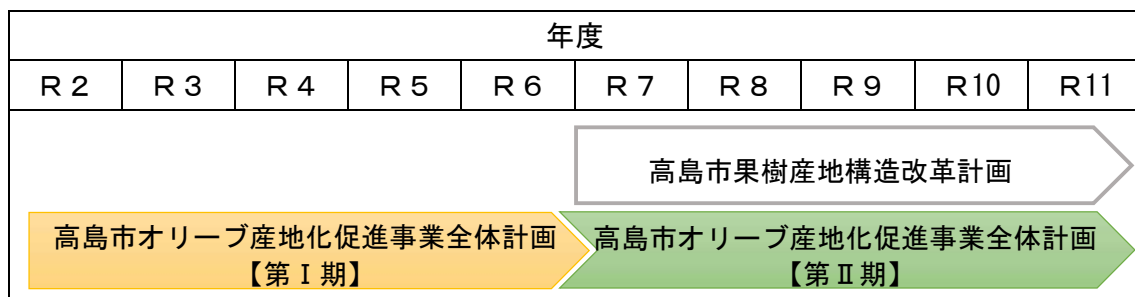
このような状況下において、市内では平成 29 年から耕作放棄地対策および獣害に強く省力化が望める品目として、「オリーブ」栽培が始まり、市としても新たな特産品として推進すべく令和 2 年度から 6 年度にかけて 5 年間の総合戦略事業に掲げました。その結果、目標面積 5.0ha、目標本数 1,500 本に対し、約 5.3ha、約 1,900 本のオリーブが植栽され、令和 5 年秋に一部生産者で収穫が始まり、さらに令和 6 年度には少量ではあるもののオイルの商品化も実現しました。

オリーブは、モクセイ科オリーブ属に分類される常緑高木で長寿な木としても知られ「平和」や「繁栄」などの象徴でシンボルツリーとしても人気があります。また、オリーブの木々からもたらされる癒しや景観は、自然豊かな高島市に調和し、高島市の新たな「観光資源」としても期待できます。

さらに、オリーブオイルは、近年その健康効果が明らかになってきており、健康志向の高まりに応じ需要が増加していることに加え、今津の柿やボイズンベリー（「アドベリー」）、マキノのシイタケ、近江牛や発酵食品など様々な市の特産品と連携することで、お互いに良さを引き出すことができる可能性を秘めています。

しかし、現状は、まだ高島市でのオリーブの栽培技術が確立していない、収穫後の活用（集荷、加工や商品化、販路等）が明確になっていないなどの課題が山積しています。

そこで、本事業における事業期間を 5 年間（令和 7 年度から令和 11 年度まで）とし『高島市オリーブ産地化促進事業全体計画【第Ⅱ期】』を策定します。この計画は、高島市果樹産地振興協議会で策定する「高島市果樹産地構造改革計画」のうち、オリーブに関する計画と整合をとり、市民・生産者・民間事業者が主役となりながら、行政や関係団体と一体となって取組を進めるための指針とします。



Ⅱ 市内のオリーブの現状

平成 29 年に植栽が始まってから、年々その栽培農家数や栽培面積は増加し、令和 6 年度末（見込）で 5.3ha と、旧朽木村地域を除く市内全域に栽培は広がっています（表 1）。

栽培者は、個人農家だけでなく、集落営農法人や地域活性化任意団体など幅広く、かつ、水稲や花き、果樹などと複合的にオリーブを栽培されている方が多いほか、定年退職などを機に新たにオリーブ栽培に着手する方もあります。

耕作放棄地を再生してオリーブを栽培しているケースも多く、耕作放棄地減少に貢献しています。現在、28 種類と多くの品種が栽培されており、地域に適した品種や栽培技術が明確になっていないのが現状です。

令和 5 年度、3 戸の農業者で初めて果実が収穫されました。令和 6 年度は、収穫したオリーブ果実を、県外事業者へ委託して搾油加工し、初めてオイルとして商品化されました。また、塩漬け商品の開発を目指し、協議会として県内の加工事業者と連携して一次加工（渋抜き）の検討や塩漬け商品の試作等を行いました。県内では搾油機やオリーブの加工技術を持つ事業者が無いため、今後はいかに市内で加工を進めるか、その対策が求められます。

表1 市内オリーブ栽培面積の推移

年 産	栽培農家数 (戸)	栽培面積 (a)	収 穫 量 (t)	反 収 (kg/10a)
平成29(2017)年	11	2.5	0	—
令和2(2020)年	11	35	0	—
令和3(2021)年	13	200	0	—
令和4(2022)年	13	300	0	—
令和5(2023)年	13	504	0.02	29
令和6(2024)年	14	529	0.08	12.2

（滋賀県果樹生産事情調査などより作成）

※H29～R2年の栽培農家数は 11 戸であるが、R3年以降は 11 戸を任意団体1団体でカウント

Ⅲ 目指す姿

「幸せを呼ぶオリーブのまちたかしま」の実現

オリーブには「平和」や「知恵」という花言葉があり、旧約聖書にあるエピソードから由来して現在も平和の象徴として知られています。高島市はオリーブの後発産地ですが、高島市には様々な特産品や観光資源が存在していることから、オリーブが引き立て役となってそれらとコラボレーションさせることで、新たな魅力を創出し、充実感や幸福感を生み出す可能性を秘めています。

そこで、一つには、高島が持つ資源の魅力を最大限に引き出した“高島にしかない”オリーブの商品であふれるまちづくりを進め、オリーブを求めてこの地を訪れ、高島のファンになる人を増やすことを目指します。

もう一つには、オリーブ畑を起点に市内外の人々が交流し、新たなストーリーが生まれることによる、関係人口の増加を目指します。

これらが両輪となって、互いに相乗効果を与え合うようになったとき、高島に魅力や楽しみを感じ、高島に長く関わる人たちが創造する「幸せを呼ぶオリーブのまちたかしま」が実現するのです（図1）。

※関係人口とは…その地域にいずれかの形でかかわる人たちの総称ですが、この計画においては、「観光以上定住未満」のいわば「将来的に移住を期待されている人」という狭義にとらわれず、“楽しみながら長く高島に関わり続ける人たち”とします。

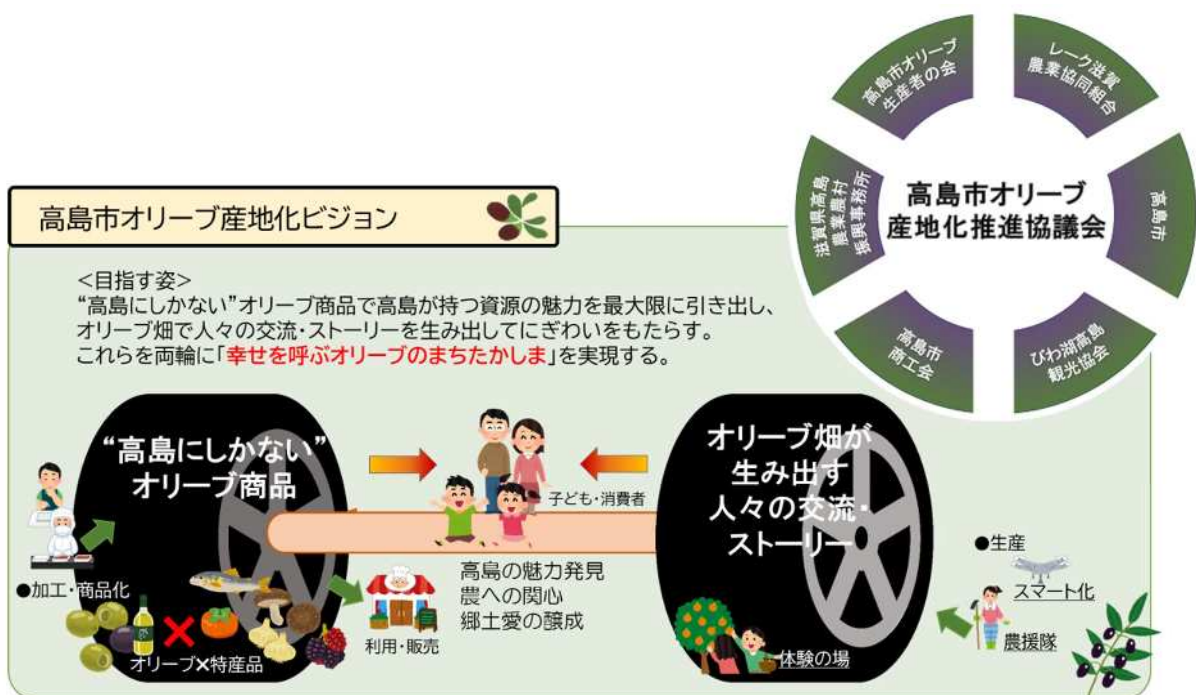


図1 高島市オリーブ産地化ビジョン

IV 取組方針

方針 1 良質な果実や枝葉を安定生産し、栽培面積を拡大します

① 栽培品種

高島市内での栽培に適した振興品種を選定し、栽培を推進します。オリーブは、温暖で降水量が少ない気候を好みますが、当市は冬季の気温は低く降雪が多く、4～11月の降水量が多いのが特徴です。したがって、振興品種は、耐寒性や耐病性に優れている、樹形が開帳性で管理作業がしやすい、収量性が高いことを前提に、加工適性も考慮して、表2のとおりとします。

新たに植栽する場合は、面積や加工用途により、振興品種を参考に品種を選定します。なお、振興品種は、必要に応じて、適宜見直します。

表2 振興品種

区分	品種
振興品種	ルッカ、フランドイオ、レッチーノ、タジャスカ、ペンドリーノ マンザニロ、コルチナ、アルベキーナ

② 栽培地域

高島市域全体でオリーブ栽培を推進します。オリーブは、獣害を受けにくいことから、他の果樹では獣害に遭いやすい山あいや、水持ちが悪く水稻栽培に向かない水田等での栽培が可能です。ただし、耕作放棄地や水田等に植栽する場合、日照時間やオリーブ栽培に適した土壌改良を考慮した上で、特に排水性については、明渠や暗渠の設置等の改善や高畝栽培の導入など、栽培条件を十分に検討することが必要です。

③ 推進する栽培樹形および栽培間隔

高島市は降水量が多いため、病気の発生が懸念されます。また、日照時間が少ないため着果量の減少も懸念されます。したがって、風通しが良く、光を多く受ける樹形である「低樹高開心自然形」（樹高1m付近から3～4本主枝を出し芯を抜く）を推奨します（写真1、2）。また、樹間・列間は5m四方とし、10a当たりの栽培本数は40本を標準とします。

この栽培樹形は、オリーブ栽培の天敵であるオリーブアナアキゾウムシの被害を発見しやすいという利点もあります。



写真1



写真2 目指す栽培樹形

④ 栽培技術の向上による収量向上

高島市に適した「栽培マニュアル」を作成し栽培者に配布するとともに、市内栽培者を組織化した生産者団体を通じて、栽培管理研修会等を開催し栽培技術の向上・相互研鑽を図ります。特に、栽培のポイントである、「土づくり」、「剪定」、「防除」に関する技術の普及を強力に進め、収量向上を図ります。

また、JA 等関係機関と連携し、加工の用途に応じた選別基準を設け、高品質な果実が生産・出荷されるよう推進します。また、加工しない栽培者が出荷できるよう、集出荷体制を構築します。

⑤ ほ場の再生・維持管理のスマート化の推進

高島市では、耕作放棄地が増加しています。オリーブを耕作放棄地に植栽する場合、木々の伐採・搬出や土壌の搬入等に必要な経費を一部支援します。

また、オリーブ園の栽培管理の省力化を進めるため、スマート農業を推進します。

⑥ 栽培者の確保

オリーブの栽培面積を拡大するため、市内全域で新規栽培者を募ります。

また、農繁期である収穫・選別作業期は集中的に労働力を要するため、短期雇用や農福連携による一時的な労働力が確保できるよう関係者と連携します。

目標値

オリーブ栽培本数	令和 11 年度	5,000 本
オリーブ栽培者	令和 11 年度	22 経営体

方針2 高島ならではの魅力が詰まった加工品を開発します

オリーブ果実の利用として、塩漬けやオイル、そして果実以外の利用として、枝・葉を活用した粉末や茶等の加工品の商品開発を推進します。また、塩漬けやオイル、葉の粉末等と地元の食材や食品等を組み合わせた二次加工商品（例：ピクルス、ドレッシングなど）の開発を支援し、高島にしかない商品開発を目指します。

また、より魅力あるオリーブ商品を開発するため、大学との連携や異業種との連携等を促進します。

① 塩漬け商品の開発

オイルは搾油率が5～8%と低いため、収穫量が少ない現状では、塩漬けの商品化への期待は大きいといえます。そこで、迅速に塩漬け商品が開発されるよう、県内の加工事業者に対し、塩漬け方法の確立に向けた加工試験や視察研修等の取組を支援します。

② 搾油機の導入と高島市産オリーブオイル商品の開発

果実収穫後できるだけ速やかに採油することで、高品質なオリーブオイルが商品化できます。現在、搾油加工については、県外の事業者へ委託していますが、本計画年度内には、「たかしまオリーブ」のブランドを構築するうえでも、市内事業者等による搾油機の設置を推進します（写真3）。また、市内で生産・集荷されるオリーブの搾油に協力可能な事業者が搾油機を設置する場合、機械導入やそれに伴う加工施設場の整備（写真4）、技術習得等に対する支援を行います。



写真3 オリーブ搾油機



写真4 搾油施設

③ 果実以外を利用した商品の開発

栽培過程において得られる剪定枝を有効活用した商品の開発を推進するため、県内で乾燥機などを導入している事業者との連携に関する取組を推進します。

また、搾油後に副産物として発生する搾りかすの飼料化や堆肥化等を推進し、循環型農業の実現や畜産農家との連携の取組を支援します。

④ 二次加工品やメニューの開発と商品コンテストの開催

高島市には、様々な特産品があり、オリーブはそれら特産品の魅力を引き出す最高の脇役として期待されています。そこで、オリーブの塩漬けやオイル、葉の粉末等を活用した二次加工商品やメニューの開発に対する支援を強力に進めるとともに、商品のレベルアップやPRを進めるため、商工会と連携して、市内事業者による試作・試食検討会や商品コンテストを開催します。

目標値

オイルの生産量	令和 11 年度	700ℓ
塩漬けの生産量	令和 11 年度	400 kg
二次加工品の商品数	令和 11 年度	10 種類

方針3 観光資源としてオリーブ畑を整備し、人々の交流を生み出します

オリーブの木々やオリーブ畑は、まるで地中海沿岸を訪問したような穏やかな気持ちを与え、その風景・景観は、私たち人間に癒しの効果を与え、訪れた人々を魅了します。オリーブ畑を観光資源としてより魅力的なものにしていくためには、足を運びやすく、過ごしやすいほ場へ整備することが重要です。

① 畑の観光資源化

オリーブ畑は一般的な観光摘み取り（収穫体験）だけでなく、オリーブ畑で食事を堪能したり、写真撮影スポットや憩いの場として木々の景観を楽しんだり、畑そのものが観光資源となりえます（写真5）。そのようなあらゆる畑への訪問目的を想定した体験やイベント等の取組を推進するとともに、トイレや駐車場など、人々の交流に必要な畑の周辺環境の整備を検討します。



写真5 オリーブほ場

② 体験メニューの作成

オリーブを主軸として、高島の自然環境や食を楽しむことができる観光体験メニューの作成を支援します。体験には、摘み取りのほか、その場での加工体験（搾油・新漬け等）や、枝葉を利用したリース作り体験等、オリーブの魅力を実感できる方法を模索し、その取組を推進・支援します。

また、高島地域には、オリーブ以外の特産物や観光資源が豊富にあることから、観光スポットや宿泊施設等とも連携しながら、高島を存分に堪能できる体験メニュー構築に向けて情報を提供します。

③ 援農隊の試行

摘み取りなどの体験は、その日限りの一過性のものですが、「たかしまオリーブ」のファンを増やす、継続した取り組みが重要となります。また、オリーブ栽培は、株元の除草や収穫など一時期に集中した労力が必要になることが特徴です。そこで、オリーブ栽培を年間通して学びながら、無償で農作業をお手伝いする「援農隊（ボランティア）」の取組を推進・支援します。援農隊は、個人だけでなく、地域貢献を考える企業や、ゼミ活動等を検討する大学等にも活用されるよう情報を提供します。

目標値

オリーブ関連の体験メニュー等の参加者数 令和11年度 のべ5,000人

方針4 「たかしまオリーブブランド」を確立し、その認知度を向上させます

① 成分分析と「たかしまオリーブ」のコンセプトの設定

オリーブは、オレイン酸やポリフェノール、ビタミンEなど健康効果の高い成分が含まれていますが、栽培環境や品種、収穫（採取）時期で大きく異なると言われています。そこで、高島市で栽培されたオリーブ果実から搾油したオイルや塩漬け商品、また葉の粉末について、成分分析を実施し、「たかしまオリーブ」の特徴を把握します。それら特徴を把握したうえで、高島市内で生産され、一定の栽培基準を満たしたオリーブ（果実、葉、搾りかすも含む）を「たかしまオリーブ」として位置づけ、高島市やオリーブの魅力を存分に活かしたロゴやデザイン、キャッチコピーを作成するとともに、市における商標の登録を目指します。

② 特産品としての位置づけやお土産ものの販売

市内には、県内でも訪問客がトップクラスの道の駅や直売施設が存在します。また、多数の宿泊施設に加え、近年はグランピング施設も増加しており、2024年には高級リゾートホテルも誕生しました。マッチング交流会への出店等、宿泊・販売施設と連携しながら、高級なお土産ものとして販売することで、「たかしまオリーブ」のブランド価値を高めます。

③ いつでもオリーブを味わうことができる環境づくり

飲食店や宿泊施設等が行う「たかしまオリーブ」のPRに資する取組を支援することで、その取扱店舗数や「たかしまオリーブ」協賛の輪を拡大していきます。

④ 認知度の向上

まず市民がオリーブに魅力を感じ、オリーブが生活に当たり前に存在するという環境をつくることが第一歩目となります。直売所など市民が利用する場を通じて啓発を行うほか、学校教育との連携により子どもを通しての家庭へのアプローチを図ります。また、市内の様々な団体、事業者等と連携し、「たかしまオリーブ」の魅力発信を進めます。

そして、オリーブがより身近にあるライフスタイルに好感を得て、高島を訪れたい、高島に住んでみたいと思われることがその次のゴールとなります。市外からの観光客に対しては、観光スポット、宿泊施設との連携によるPRを強化するほか、市のふるさと納税の返礼品としてオリーブ商品を提供することやメディア、SNSの活用による認知度の向上に努めます。

目標値

たかしまオリーブのPR協力店の数	令和11年度 10店
------------------	------------

V 実施計画（年次計画）

計画期間における上記１～４の方針に沿った活動計画は次のとおりとします。なお、年度ごとに活動実績を評価し、次年度以降の実施計画に反映して更新するものとします。

「幸せを呼ぶオリーブのまちたかしま」の実現 ～“高島にしかない”オリーブ商品をつくり、オリーブ畑で人々の交流・ストーリーを生み出す～

方針	取組	年次計画						取組主体と役割		
		R7	R8	R9	R10	R11	R12以降			
1	栽培マニュアル作成	実証ほ設置、推奨品種選定	マニュアル作成	マニュアル普及				生産者・栽培 県：技術指導、マニュアル作成 市：研修会の開催		
	研修会の開催									
	良質な果実や枝葉を安定生産し、栽培面積を拡大します	新採収組合の募集 収支モデル作成	収支モデル作成					市：説明会の開催 県：収支モデル作成		
	ほ場の再生・維持管理のスマート化	ほ場の再生・スマート農機導入						生産者：ほ場の再生、スマート農機導入 県：ほ場再生支援、スマート農機導入支援		
2	農福連携							生産者：連携先との農福連携の実施 市：関係者の紹介・調整		
	新漬け商品化	一次加工法確立 商品試作・開発（市内委託）	販売							
	オイル商品化	販売（県外委託）	榨油技術習得	榨油技術習得 榨油受委託				生産者：加工品の開発、加工委託 市：集荷		
	果実以外の商品化・循環 二次加工品・メニューの開発	粉末加工商品試作（県内委託） 商品試作	粉末加工商品試作（県内委託） 販売 商品コンテストの開催	搾りかすの飼料化・堆肥化試作 畜産農家との連携 二次加工品・メニューの開発・販売	搾りかすの飼料化・堆肥化試作 畜産農家との連携 二次加工品・メニューの開発・販売			県：選別基準の策定支援、商品開発支援 商工会：加工事業者への情報提供 コンテスト：運営支援、商品開発支援 市：搾油施設整備支援、技術習得支援		
3	集出荷体制構築	体制検討	体制確立、実践	随時見直し						
	畑の観光資源化	畑周辺環境の整備検討								
	観光資源としてオリーブ畑を整備し、人々の交流を生み出します	体験メニューの検討・農家での試行	体験メニューの検討・農家での試行	観光協会体験メニューの導入・運用	オリーブ×他品目・体験等との連携			生産者：体験事業の実施 観光協会：体験メニューの提案・宿泊施設などの連携 県：搾農機の導入支援		
	搾農機の整備	搾農機の仕組み検討・試行	搾農機の募集・運用							
4	コンセプトの設定	加工品分析、ロゴ・デザイン作成	商標登録、使用規程					市：成分分析、ロゴ・デザイン作成委託、商標登録		
	市内外へのPR	POP・チラシの作成	広報誌・販売施設など啓発	ふるさと納税返礼品登録 催事によるPR		学校教育との連携		生産者：ふるさと納税返礼品登録、催事参加 市：PR資材作成、広報誌などの啓発、学校教育連携の窓口 商工会：催事の運営		
	市内飲食店などでの利用		商品取扱店に向けた周知・PR方法検討	商品取扱店によるPR						

図 2 実施計画

VI 計画の推進体制

高島市オリーブ産地化推進協議会

①設立目的

高島市のオリーブ産地化に向けて、その振興方向を明らかにし、戦略（「高島市オリーブ産地化促進事業全体計画」）を策定するとともに、その戦略のもと関係機関が一体となってオリーブの振興を進めることを設立目的とします。

②構成員と役割分担

機関	役割分担
高島市オリーブ生産者の会	・オリーブの栽培・知識や技術の向上 ・加工品の開発・商品化 ・観光（体験）の受け入れ・実施 ・会員相互の情報交換
ＪＡレーク滋賀今津営農経済センター ＪＡレーク滋賀安曇川営農経済センター	・オリーブ栽培方法の指導・資材販売 ・集出荷における調整
びわ湖高島観光協会	・観光に関する情報発信 ・他特産品や観光資源との連携 ・宿泊施設との連携 ・お土産ものに向けた情報発信
高島市商工会	・オリーブ新商品開発に向けた補助金の紹介や事業者との連携・情報発信 ・直売所施設などでのＰＲ
滋賀県 （高島農業農村振興事務所農産普及課）	・オリーブ栽培方法の指導 ・関係機関のコーディネート
高島市 （農林水産部農業政策課）	・高島市全体のオリーブ産地化に向けた取組の総括 ・栽培・加工・観光に関する補助 ・栽培等講習会の開催支援
その他、市内小売店や飲食店等の協力関係機関	・ＰＲの協力 ・新商品、新メニューの開発

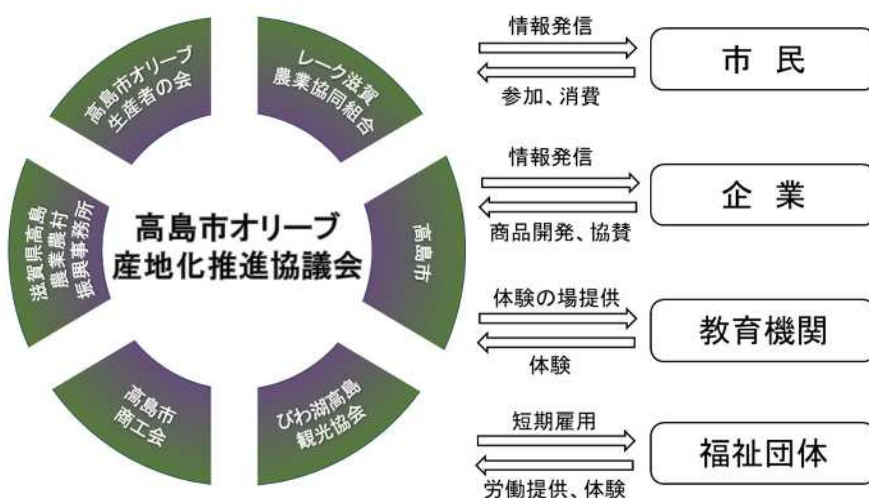


図3 高島市オリーブ産地化推進協議会の推進体制

VII その他（資料など）

1. 高島市の気候条件

高島市は、気候的には日本海側に近いことから、冬期の寒さは厳しく、積雪量の多い日本海側気候となっており、年間平均気温 15.8℃、年間降水量は 2,069 mm と県南部と比較して多く、晩秋には「高島しぐれ」と呼ばれる降雨がしばしばあります。

表2 オリーブの栽培条件

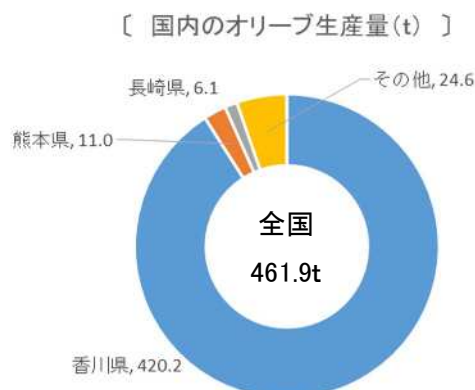
地域	平均気温（℃）	年間降水量（mm）	年間日照時間（h）
オリーブ栽培適地※	14～16	1,000 程度	2,000 以上
高島市	15.8	2069.0	1837.4
香川県小豆島	17.5	1237.5	2266.3

※「育てて楽しむオリーブ栽培・利用加工 柴田英明編（創森者）」から引用
気象庁ホームページより 2024 年データ

2. 国内のオリーブの栽培状況と消費者ニーズ

オリーブの栽培に関しては、国内では香川県でいち早く産地化が進み、以前は同県産が国産出荷量の 99% 以上を占めていましたが、その後、香川県以外でも産地化を目指す動きが広がり、香川県産以外が 1 割を占めるようになり、全国における栽培面積はここ 10 年で 2 倍以上、収穫量は 4 倍以上に増加しています。

世界においては、スペインでの生産量が一番多く、40% 以上のシェアがありますが、2022 年から発生した大干ばつや熱波の影響で不作が続き、輸入オリーブオイルの価格高騰が続いています。食生活の多様化や健康志向の高まりとともに国内でのオリーブオイルやその他のオリーブ関連商品の需要が伸びる一方で、輸入品の価格上昇が続く背景により、輸入品の代替として高品質の国産品に手堅いニーズが広がる可能性があります。



農林水産省「平成 30 年産特産果樹生産動態等調査」

〔 国産オリーブオイルの生産量と消費量 〕

オリーブの年間生産量	461.9 t
オリーブオイルの年間生産量(推計) A	37.0 t
オリーブオイルの年間消費量 B	59,000 t
割合 A/B	0.06%

注：オリーブオイルの年間生産量は、採油率 8% で算定
注：オリーブオイルの年間消費量は、一般社団法人日本植物油協会のデータを使用

3. 栽培の参考

表3 振興品種の特性

品種名	用途	樹形	品種特性
ルッカ	オイル	開帳性	耐寒性、耐病性に優れる。樹勢は強い。隔年結果性強い。
フランドイオ	オイル	開帳性	耐寒性、耐病性に優れる。生産性が高く、安定。樹勢は強い。
レッチーノ	両用	開帳性	樹勢は強く、生長も早い。寒さや炭疽病に強い。生産性は高い。
タジャスカ	両用	開帳性	樹勢は強いが、耐寒性は高くないため、弱りやすい。生産性は高い。
ペンドリーノ	オイル	下垂性	耐寒性がある。開花期間が早くて、非常に長い。生産性は高い。
マンザニロ	塩漬け	開帳性	果肉が柔らかい。豊産性。炭疽病に弱い。果実大きい。
コルチナ	両用	直立性	耐寒性がある。生産性は高い。
アルベキーナ	オイル	開帳性	果実は小さい。樹勢はやや弱い。開花時期早い。生産性は高い。

表4 高島市オリーブの栽培暦

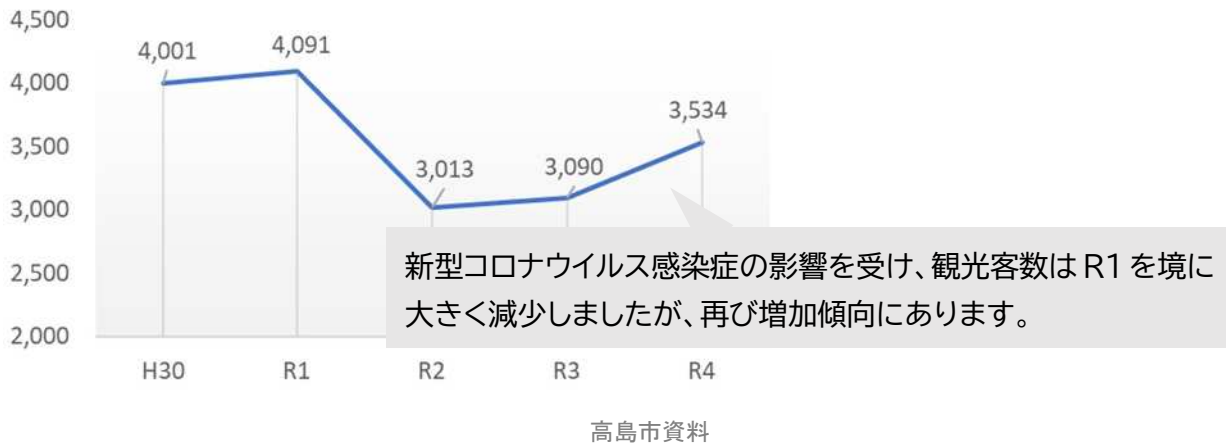
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育 ステージ	休眠期			新梢伸長期				果実成熟期				休眠期
				萌芽期	開花期	結実期	果実肥大期					
栽培 管理 作業		剪定			枝管理		枝管理		果実収穫・出荷			剪定
		春肥				夏肥			秋肥			
				除草(オリーブアナアケゾウムシ捕獲)								

表5 高島市オリーブの栽培作業時間 (h/10a)

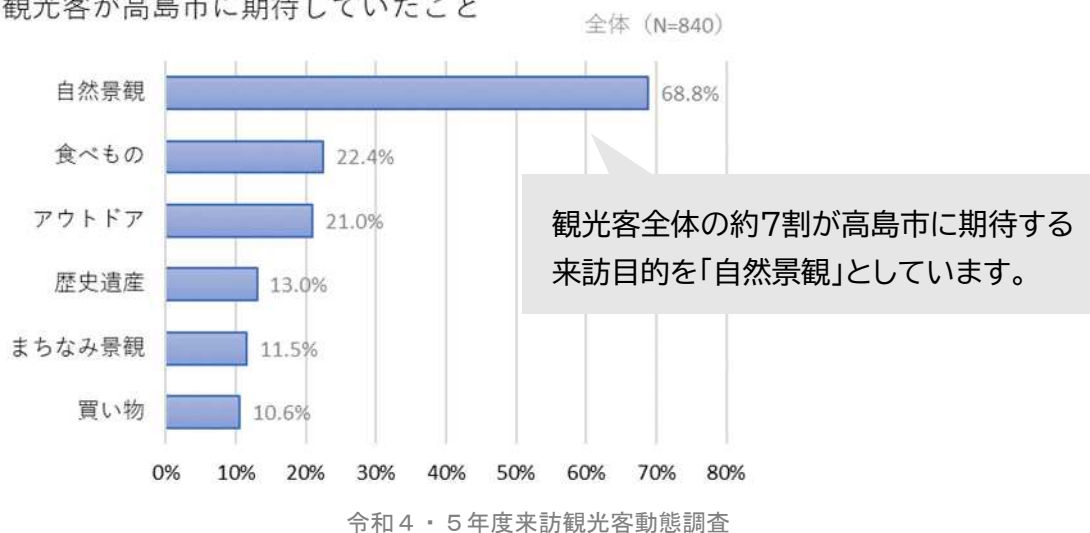
作業名	旬	月												合計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
整枝せん定	上			10			2			2			2	48
	中		2	10									2	
	下		10	2		2			2				2	
施肥・土壌改良	上													4
	中		1	1										
	下						1				1			
病害虫防除	上					1				1				6
	中				1		1			1				
	下						1							
除草	上													6
	中				1	1	1	1	1					
	下									1				
かん水	上					1			1					6
	中					1			1					
	下					1		1						
収穫・調整	上										40	15		190
	中									5	50	10		
	下									40	30			
出荷	上										3	1		18
	中									1	4	1		
	下									5	3			
旬別合計	上	0	0	10	0	2	2	0	1	3	43	16	2	278
	中	0	3	11	2	2	2	1	2	7	54	11	2	
	下	0	10	2	0	3	2	1	2	46	34	0	2	
月別・年別合計		0	13	23	2	7	6	2	5	56	131	27	6	278

4. 高島市の観光に関する状況

高島市における国内観光客数の推移
(千人)



観光客が高島市に期待していたこと



市民は高島市がどんな強みを持った観光地を目指すべきと考えているか

